

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
春日部市	木崎地区	令和3年3月25日	

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	42.65ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	26.07ha
③地区内における70才以上の農業者の耕作面積の合計	18.46ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.34ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	10.73ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	30.0ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話し合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

地域農業者の年齢構成は、青年就農者（18歳～44歳）が2%、45歳～69歳が51%、70歳以上が47%となり、高齢化が進んでいる。また、水田地帯により若手の担い手が農地の拡大、集約を希望しているため、畦畔の除去等による区画の拡大や、農地の集約方法が課題となっている。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話し合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

座談会を開き農地の出し手の確認と農地の配分、再配分を話し合い、中間管理機構を活用しながら集約化を実現していく

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

--

